

2012.4 — 2013.3
ARCHIVE of hacchi



hacchi

2012.4 — 2013.3
八戸ポータルミュージアム はっちの歩み

目次

○館長より	2
○はっちについて	3
○自主事業	8
・ 中心市街地賑わい創出事業	
シーズンイベント	9
GW/七夕/クリスマス/正月	
モヨッテ参道	13
Marble4・ハチカサ	14
サマーセミナー事業	15
イベント連携・はちのへ雛めぐり	16
ライブラリ事業	17
市民活動支援事業	18
はっちサロントーク	20
・ 文化芸術活動振興	
和日カフェ～日本文化に親しむ日～	21
はっち流騎馬打毬	25
酔っ払いに愛を～横丁オンリーユースシアター～	29
はちのへ横丁ウィーク	31
アートイベントプロデュース入門講座	32
アーティスト・イン・レジデンス公募	33
第1回はちのへ演劇祭	34
・ ものづくり振興事業	
ものづくりスタジオとは	36
ものづくりスタジオ支援	37
はっち市	38
・ 観光振興事業	
お祭り in はっち（八戸三社大祭）	40
えんぶり in はっち	41
テッテイ討論/はっちツアーズ	42
○情報発信事業	43
○貸館事業	44
○こどもはっち	46

2012 年を振り返って

八戸ポータルミュージアム はっち

館長 風張知子

八戸ポータルミュージアム「はっち」は、元気をなくしたまちなかに、再び人を呼び戻し、元気にするきっかけをしかけていく施設であり、プロジェクトとして、2011 年 2 月 11 日に開館しました。開館前から、市民の皆様とともに、オープンしたら何ができるかを考え、プレ事業を何度も開催してきたところです。

オープンして 1 か月後に八戸市は、東日本大震災に襲われましたが、幸い被害のなかったはっちは、臨時避難所として多くの人を受け入れ、その後もまちへ元気なメッセージを発信し続けてきました。以来、おいでくださる皆様、活動してくださる皆様、協力支援してくださるすべての皆様のお陰で、はっちは 3 年目を迎えることができました。

まちなかの様子も、通行量が増え、新規に 50 事業所が開設するなど、少しずつ元気をとりもどしてきました。あらためて皆様に心から感謝申し上げます。

はっちにいて思うことは、八戸の資源の素晴らしさです。ものづくりや文化芸術に関わる人々や、館内案内・まちづくりなどボランティアでまちを元気にしたいという人々の活動を通して、本当に多くの素晴らしいモノやコト、そして人が八戸にあることを実感します。また、そこに外からの風を吹き込んだ時、それはアーティストのアイデアなどによることも多くありますが、様々な出会いと交流によって違った魅力が生まれ、その資源が生き生きしてくることもあるのです。

様々な人の力で様々な事業が行われている「はっち」は訪れるたびに違う顔の持つ、これまでに類のない施設です。「自分のすることが、市民や観光客に喜ばれている」という達成感を抱いてもらいながら市民力により発展し続けるシビックプライドミュージアムであるとも思っています。

そんなことを積み重ねてきた 2012 年度（平成 24 年度）の 1 年間の記録をアーカイブ本としてまとめました。市民とともに「まちを想いまちを動かすプロジェクト」をご覧いただければ幸いに存じます。



名称とシンボルマークがあらわすもの

正式名称が示す施設の機能

正式名称「八戸ポータルミュージアム」は、来館者が観光などのために、実際の八戸に足を踏み出す玄関（入口＝ポータル）としての機能を担う施設であるとともに、市民の創造活動の拠点として、その本質に触れることができる博物館（＝ミュージアム）のような機能を担う施設であるという意味が込められています。



公募から生まれた愛称「はっち」

「はっち」という愛称は、公募から生まれました。八戸の「はち」から派生した「はっち」であり、市民にとって最も身近な言葉の一つでもあります。また、英語で卵の孵化や出入口などを意味する「hatch」にもちなんだ名づけられました。

地域の特長を表現したシンボルマーク

シンボルマークは、デザイナーの古平正義氏により、数字の8をモチーフとしてデザインされたものです。八戸が、南部地域の一戸から九戸まで数字を冠するまちに囲まれ、また「はっち」も中心市街地の三日町、六日町といった市日を表す町名の中にあるなど、数字の地名が多い八戸の地域的な特長を表しています。

はっちは『ソウゾウ開化』のために生まれました。

「ソウゾウ」と聞いて何を思い浮かべますか。

アートであったりデザインであるかもしれません。

「ソウゾウ」は、まちやひとを想う視点を変えてみることであり、

その「本質」を育てる取り組みであると考えます。

「本質」を育てると何になるでしょう。

「本質」が大きく育つと「ブランド」と呼ばれてきます。

まちのシンボルとなる「ブランド」は、「ひと」の絆を育んでいきます。

では「本質」はどこにあるのでしょうか。

一見関係もなさそうな、身近なところに実は、そっと存在しています。

あまりにも距離が近すぎるために、見落としているだけではないのでしょうか。

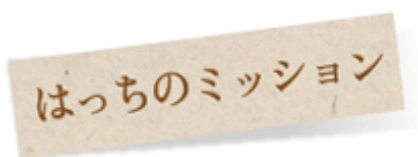
その見落としている「本質」を探しだすこと、

そのために、ちょっと今までとは違う視点で見てみることに、

そして、その具体的な活動が「ソウゾウ」であり、

そういう場や機会をつくることが、

はっちの役割＝『ソウゾウ開化』だと考えています。



はっちが担う八戸のまちづくりとは？

「はっち」はまちを元気に、ひとを元気にします。

市民とつくる事業、産業、観光振興のためのクリエイティブな事業、そして、そこに集まる人々のコミュニケーションがまちを動かす力を生み出していきます。

1. 八戸のやる気をさらに引き出します。
2. まちの連帯感をつくります。
3. ほしいものがあるまちにします。
4. 歩きたくなるまちにします。
5. 八戸資源を再発見するきっかけをつくります。
6. 八戸流の情報発信をします。
7. 子どもからお年寄りまで共に育てあう場を作ります。
8. 新しい価値と表現を生み出す場を作ります。



フィールドミュージアムと
ポータルミュージアム



シンボルマークと
8へのこだわり

八戸を「屋根のない大きな博物館」と見立てたフィールドミュージアム八戸は、観光資源を、街・渚・田園・祭・歴史文化・食彩・産業・物産の8つのテーマでわかりやすく紹介しています。「はっち」ではこれらの魅力をコンパクトに集め、実際の八戸へと誘う玄関（入口＝ポータル）としての役目を担います。さあ、「はっち」からそれぞれのミュージアムへでかけよう！

8を中心としたシンボルマークは、八戸が南部地域の一戸から九戸に囲まれている特徴を表しています。また、未広がり縁起のいい八にこだわり、はっちでは、八角形の中庭、8個の展示屋台などのハード面から、8つのミッションや事業においても88人の募集などソフト面でも8にちなんで取り組んでいます。そして、1周年記念セレモニーのその日なんと、888,888人目の入館者を迎えました。

事業のコンセプト

「はっち」は地域の資源を大事に想いながら、新しい魅力を生み出していくところです。地域の資源を大事にすること、市民と協働すること、まちなかに回遊することを意識し、3つの事業を行っています。

○会 所 場 づ くり：誰でも気軽に立ち寄れる場、ひとが集いコミュニケーションが生まれる場、地域の文化に触れられる場をつくります。

こどもはっち・はっちひろば・リビング・カフェ・ショップ・
観光展示 ほか

○貸 館 事 業：創作活動をサポートする施設の貸し出しと人的サポート

シアター・ギャラリー・各種スタジオ・レジデンス ほか

○自 主 事 業：地域の資源を活かした事業のプロデュースにより新しい価値を創造するため、4つの柱に基づいた事業を展開

中心市街地賑わい創出事業・文化芸術振興事業・ものづくり振興事業・観光振興・フィールドミュージアム推進事業



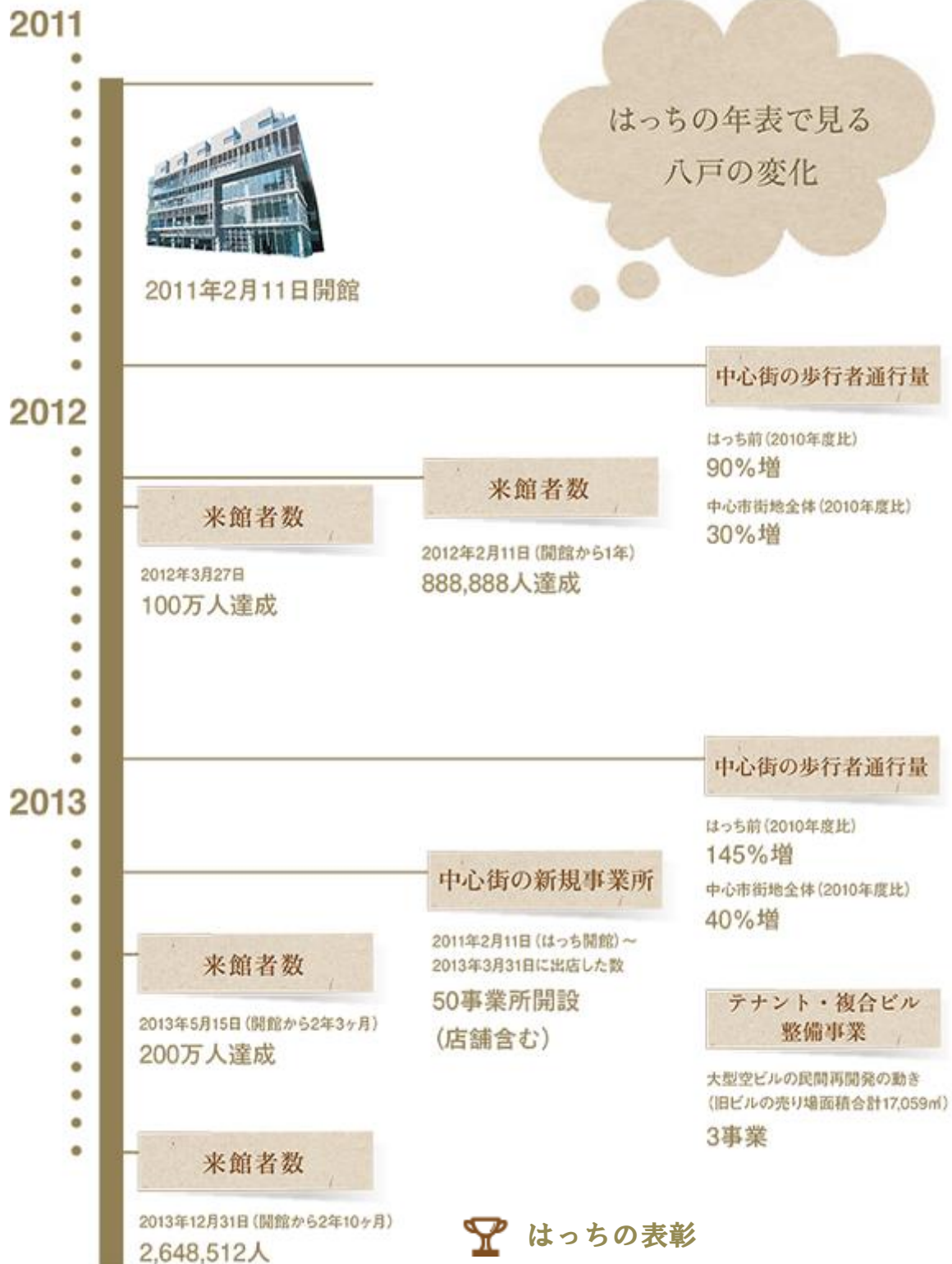
展示のコンセプト

八戸の見どころや魅力を、市民作家や市民学芸員の作品を通してわかりやすく紹介し、ここからまちなかや観光地に誘う、玄関口としての展示がコンセプトです。また、「はっち」館内は展覧会や発表会、練習などで活動している元気な市民の姿や、読書や憩いの場としてゆったりとした時間を過ごす姿、八戸弁でおしゃべりをしている素のままの市民の姿も含め、まるごと八戸が感じられる施設です。

市民にとっては、八戸の魅力を再認識し誇りに思う場、観光客にとっては八戸に来たら必ず寄ってみたい場となります。

建築コンセプト

「はっち」は八角形の中庭を中心に、八戸の中心街の特徴である路地や横丁のような回廊、広場のような空間があります。八戸の魅力を発見しながら、各所で観覧や活動、ショッピングや飲食、休憩を楽しめる立体的なまちとして造られています。



はっちの来館者

平成 25 年 3 月 31 日現在 1,900,046 人



はっちの表彰

2011. 照明学会 照明普及賞受賞

2012. グッドデザイン賞(八戸レビュー)

2013. グッドデザイン賞(八戸ポータルミュージアム)

2013. 第33回東北建築賞

2013. 「日本建築家協会優秀建築選」100選

はっちのボランティアガイド

来館者とまちをつなぐ、ボランティアガイド

はっちでは約 50 人のボランティアガイドが活動しています。毎日、午前 2 人・午後 2 人いるガイドは、館内案内や八戸の見所、飲食店の案内のほか、身の上相談をされることもあるようです。学生や飲食店主、八戸市鷗盟大学（高齢者大学）卒業生など、10 代から 70 代までの幅広い年齢や職業の方がガイドをしており、自主研修をしながら経験を積み、はっちを支えています。



▲ガイド研修会。お互いに学びあいレベルの向上に努めています。



▲ガイドの年齢層も幅広く、それぞれの持ち味で来館者を楽しませています。

ボランティアガイドさんに案内されたり、声をかけられることで、はっちの取り組みを理解したり、再び八戸に来てみたいという気持ちになるようです。

はっちボランティアガイド活動日報より（一部抜粋）

- ・近所にお住まいのおばあちゃまが、「えんぶりの和紙人形をはじめ、はっちは毎日観ても飽きないものばかりだし、催し物も楽しみで毎日のように来ている。」とのこと。身近な方にこんな風に喜ばれて嬉しいですね。
- ・出張で横浜からいらした男性が「はっちのことは同僚から聞いていたが、ガイドに案内してもらって良く分かった。八戸にこんな場所ができてよかった。」と言われた。
- ・八戸在住の若いカップルを 2～3 階にご案内した。2 人とも何度も来館しているのに、1 階だけで帰っていたとのこと。今日はとっても中身のある時間を過ごせたと喜んでた。
- ・アメリカ人の家族をご案内。八戸は素晴らしいところだ、特にえんぶりや三社大祭など、古くからのお祭が大切に守られているのが素晴らしい！とのこと。外国の方にも八戸のことが伝えられて嬉しく思った。
- ・横浜在住の女性が里帰りでお母さんと来館。「八戸のいろんなことが紹介されていて、懐かしく誇らしい気持ちになった。」とのこと。私まで誇らしい気持ちになった。

自主事業

「はっち」は、「地域の資源を大事に想うこと」、「市民と協働で行うこと」、「まちなかに回遊させること」をコンセプトに、「中心市街地賑わい創出」、「文化芸術活動の振興」、「ものづくりを通じた新しい価値の創造」、「八戸の魅力発信、観光を通じた地域活性化」の4つの基本方針に基づいて、分野横断的に事業を展開しています。また、市民一人ひとりが多様な形で参加し、市民が主役になれる仕組みを設けており、地域資源の掘り起こしやシビックプライドの醸成、コミュニケーションの再構築につながるあらゆる取り組みが、市民の手によって日常的に行われています。

「はっち」の自主事業では、これからたくさんの市民に関わっていただきながら、まちの歴史や文化を大事に想い、これまでとは違った視点からまちの魅力や地域の宝を発見していきます。



シーズンイベント [はっちのゴールデンウィーク]

子どもも大人も楽しめるプログラムが満載！

○概要：いつも季節感を感じられるまちにするために、はっちも季節を先取りした空間を提供すべく、シーズンイベントを開催。ゴールデンウィークには、特に多く集まる家族連れを中心に、子どもも大人もいっしょになって楽しめるプログラムを行い好評を博した。

○実施期間：平成 24 年 4 月 28 日～5 月 6 日

○プログラム内容：

■親子で楽しむアートアニメ

実施日：4 月 28 日（土）～5 月 6 日（日）

協力：八戸市視聴覚センター・児童科学館

■ものづくり体験 HAND! FOOD!! MUSIC!!!

実施日：4 月 28 日（土）

実施場所：はっちひろば・ギャラリー1・シアター1

入館者数：2,856 名

■はっち de 絵本読み聞かせ

実施日：4 月 28 日（土）

読み聞かせ：大久保伸夫 来場者数：約 30 名

■はっぴーMarché×Buy はちのへ

実施日：4 月 29 日（日）

共催：八戸商工会議所 入館者数：6445 名

■虎舞水飲み場 2012 オープニング

実施日：4 月 30 日（月） 入館者数：3324 名

■はっち de サンバ

実施日：5 月 3 日（木）・4 日（金）

共催：はちのへ未来ネット 講師・舞台美術：YAM

入場者数：3 日 約 100 名 / 4 日 約 150 名

■ミニミニ絵本劇場

実施日：5 月 5 日（土）

入場者数：281 名（2 回合計）

主催：八戸市[まちづくり文化推進室] 共催：はちのへ未来ネット

出演：どりーむキャンパス 舞台美術：YAM

■カプラ de 動物園

実施日：5 月 6 日（日）

共催：はちのへ未来ネット 講師：金澤正博 入場者数：約 50 名

■ゴールデンウィークこどもスタンプラリー

実施日：4 月 28 日（土）～5 月 6 日（日）

実施場所：八戸市美術館、こどもはっち、はっち2階ギャラリー

主催：はちのへ未来ネット 共催：八戸市

スタンプラリー引き換え数：美術館 46 個、こどもはっち 約 100 個



▲「はっち de サンバ」舞台装飾も子どもたちと制作し、サンバの演奏を行った。



▲虎舞水飲み場オープンには本物の虎舞も登場。



▲木のおもちゃ「カプラ」を積み重ねて作る「カプラ de 動物園」

シーズンイベント [はっちの七夕]

八戸の夏のはじまりを彩った はっちの七夕



▲短冊に願い事を書き込む「短冊カフェ」



▲チラシのデザインは、織姫にちなみ裂織をモチーフに



▲市内のシェフたちが腕をふるった「七夕ブイヤベースフェスタ」



▲豊嶋裕子(八戸特派大使)ピアノコンサート

○概要：八戸の夏の始まりを告げる七夕。七夕の竹飾りには願いが書かれた短冊が毎日増え、鮮やかな色彩が中心街の七夕ムードを演出。八戸ゆかりの方々によるコンサートや展覧会、八戸ならではの食材を使った食のイベントなど、いずれもさまざまな分野の市民のみなさんと協働で行い、改めて八戸の市民力の高さを実感させるものだった。

○実施日：平成 24 年 7 月 4 日(水)～19 日(木)

○共催：八戸圏域水道企業団・八戸ハマリレーションプロジェクト・はちのへ未来ネット

○プログラム内容と来場者数

- たなばた短冊カフェ(4 日～17 日)：約 1,000 名
- 七夕ブイヤベース (15 日)：444 食 (16 日)：200 食
- 東風コンサート (6 日)：約 100 名
- 豊嶋裕子ピアノコンサート(15 日)：約 170 名 (2 回)
- 星のかんむりをつくろう(14 日・15 日)：約 100 名
- 水の写真展&ポスター展(4 日～17 日)：約 200 名

- 手打ちそば×地酒×JAZZ フェスタ：来館者数 4,137 名
- たなばた茶会(14 日)：約 300 名
- Megu コンサート(7 日)：約 50 名
- 南部弁で楽しむプラネタリウム(7 日)：約 50 名 (4 回)
- 星と光のアートシネマ：約 100 名(5 回)

シーズンイベント [はっちのクリスマス]

スイーツや音楽、イルミネーションで輝くはっちのクリスマス。



▲ハンドベルの演奏



▲はっちひろばのクリスマスツリー



▲館内各フロアを使った社交ダンスパーティも開催



▲サンタクロースの登場に大喜びの子どもたち

○概要：中心街各所にイルミネーションが灯る 12 月、はっちでも館内にクリスマスツリーやリースを飾り演出。合わせてクリスマスらしい音楽のコンサートや、ものづくり体験などを行った。はっちひろばに設置したクリスマスツリーは、夕方になると記念撮影をするお客様も多く、なにげなく立ち寄った方々にも、クリスマスのムードを楽しんでいただけたと思う。

○開催期間：平成 24 年 12 月 1 日(土)～25 日(火)

○プログラム内容：

- Buy はちのへ 3rd Anniversary×はっちのクリスマス×らぶはち（1 日・2 日）
- ものづくりスタジオ ステキなギフトを贈ろう！（1 日～25 日）
- LED でクリスマスルームランプをつくろう（15 日）
- おもちゃカーニバル 2012～ヤスコレサンタのプレゼント わくわく 9 days～（15 日～23 日）
- こどもはっちクリスマス会（23 日）
- 美術館連携ワークショップ（8 日）
- はっち de 絵本・おもちゃ市&リースを作ろう！（8 日）
- 小さな音楽家たちのコンサート（15 日）
- 社交ダンスパーティ「Shall we dance?」（25 日）

○共催・協力団体等：八戸商工会議所、八戸青年会議所、はちのへ未来ネット、ヤスダコレクション、サカモトダンススタジオ、八戸小学校吹奏楽部、八戸聖ウルスラ学院高等学校音楽科、同校幼稚園

シーズンイベント [はっちのお正月]

中心街が一体となって開催した、新春のお祝いの一日。



◀ 八戸東高校・書道部のみなさんによる
「新春書道ガールズパフォーマンス」



▲ 十和田市在住の松阪つやさんからお借りしたつり雛の展示は、お正月に華を添えた。



▲ はっち 1 階のからくり時計のモチーフにもなっている「法霊神楽一斉歯打ち」はお正月の恒例に。

○概要：はっちの新年は 1 月 2 日からスタート！コミュニティラジオ局 BeFM や中心街の団体と連携し、はっちひろばで新春を祝うイベントを開催。八戸東高校書道部のみなさんによる「新春書道ガールズパフォーマンス」を皮切りに、多くの人が訪れ、はっちでのお正月を楽しんだ。中心街では、和服を着てきた人や年男・年女の人が特典を受けられるサービスを行うなど、はっちと中心街とで連携し、訪れた人々の回遊を促すための取り組みがなされている。

○開催日時：平成 25 年 1 月 2 日(水)

○共催・協力団体等：(株)ビーエフエム、八戸中心商店街連絡協議会、青森県立八戸東高等学校書道部

○プログラム内容：

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| ■ 書道ガールズ・パフォーマンス | ■ BeFM「おもしろ南部弁講座」特別収録 |
| ■ チームバックスのマジックショー with 大地球 | ■ 法霊神楽一斉歯打ち |
| ■ 小坂勝義 新春民謡のつどい | ■ 八戸のスポーツチームお正月対決 2 |
| ■ 法霊神楽一斉歯打ち | |

その他、BeFM 開局 14 周年お正月番組（放送スタジオ）もちつき（はっちひろば前）

和服で福引（はっちひろば前）お汁粉のお振る舞い（はっちひろば前：里山夢食堂、たまに庵）○来場者数：4,722 名

モヨッテ参道の日～中心街におしゃれして出かけよう～

毎月第3土曜・日曜は中心街におしゃれして出かけよう



▲7月の七夕のシーズンは、浴衣を着て街歩きを実施



▲コスプレイヤーたちも参加



▲ビルの一 corner の隠れ家のようなお店を発見し、参加者も思わず笑顔に。1人では足を踏み入れにくい場所も、みんなで行けば楽しい探検に。



○概要：商店街との連携で毎月第3土・日曜日を中心街にモヨッテ（＝八戸弁で「おしゃれして」）出かける日とし、お買い物や食事など中心街の回遊を促す取り組みを実施。中心街の約90の参加店に共通のフラッグを掲示し、モヨッてきたお客様には特典やサービスの提供を行うなど、積極的に参加するお店も見られた。また、はっちインフォメーションでは、モヨッて来た方にポイントを付与し、ポイントを貯めた方には缶バッチのプレゼントを行った。

○実施日：平成24年6月～3月の毎月第3土曜日・日曜日

○共催・協力団体等：八戸中心商店街連絡協議会、(株)まちづくり八戸、八戸商工会議所

○参加者数：

・モヨッテラカード発行枚数・・・約90枚

・モヨッテウォーク・・・117名

(6月35名、7月15名、8月11名、9月9名、10月10名、12月5名、1月8名、3月24名)

・モヨッテラバッチ配布数・・・44個

Marble4

ファッションでマチナカをキラキラに



○概要：ファッションで街のコミュニケーションを活性化させることを目的に、中心街の服飾店と共同で行っている人気のプロジェクト。中心街のショップ店員が市民モデルをコーディネートする「リアルクローズ部門」と、創作服やオリジナルコーディネートファッションでエントリーする「クリエイティブ部門」を設け、それぞれをプロのカメラマンが撮影した写真を館内に展示した。また、写真展では来場者による人気投票も実施した。また関連企画としてファッションショーを開催し、クリエイティブ部門のモデルが実際に出演し自作の衣装を披露した。今回で4回目を迎え、アンケートの結果からも年代性別問わずファッションへの関心が非常に高いことがうかがえるほか、協力店舗の場所をマップ等で紹介することで、中心街の回遊を促すことにつながっている。

○実施日：写真展 平成24年12月12日(水)～29日(土) / ファッションショー 12月16日(日)

○協力：八戸聖ウルスラ学院高等学校、八戸工業高等専門学校

○参加モデル80名、参加店33店舗

○来場者数：(写真展)約2,000名 (ファッションショー)約200名

HACHIKASA [ハチカサ]

急に雨や雪が降ってもご安心を。

○概要：八戸のまちなかのお店で借りられる無料のシェアリング傘サービス実験事業。バスやまちなかのお店等に忘れられ、処分される予定のビニール傘を集めて、まちなかの協賛店及び近隣の指定駐車場で無料貸し出しをする実証実験を実施。返却は、協賛店・指定の駐車場ならどこでも可能とした。この取り組みを通じて、まちなかの皆さんとの連携やコミュニケーションが促され、市民が楽しめる中心街として、アメニティ効果の向上につながった。

○実施期間：平成24年4月～平成25年3月

○参加協力店舗：25店舗（十三日町、三日町合計）

○貸傘使用本数：145本



大学生が探る「はっちと中心街の可能性」



▲千葉大学の8名の学生が滞在し調査を行った。



▲はっちとしても大変参考になる調査報告内容であった。

○概要：千葉大学教育学部芸術学研究室で「社会におけるアートの意味は何か」を学ぶ8名の学生が、はっち館内を細かくリサーチ。来館者やスタッフからのヒアリングを通して、①はっち事業への調査提言 ②はっち広報・情報発信への調査提言③中心街のフィールド活用についての調査提言等を行い、最終日には関係者に向けた調査発表会等を行った。

勉強をしている高校生の多くは勉強場所として活用しながらも「場」としてではなく、事業としてのはっちは自分たちは対象外だ」と思い込んでいる例が多く、高校生や若者を取り込んだ事業の実施や理念が若年層により伝わるような戦略が必要である、とのことだった。

また高校生たちにとって、ものづくりスタジオに入居するクリエイターは、「生き方の多様性に気づかせてくれて、公共性（伝統的規範性）を伝えてくれる人」との指摘は、はっちが行うアートプロジェクトやものづくり支援事業が、地元に住む若者に新たな視点を提供し、地域のことへ思いを深めてもらうきっかけに更になりうるということを再認識させられたものだった。

○実施日：平成 24 年 9 月 15 日(土)～19 日(水)（15 日～18 日 リサーチ・まとめ、19 日 報告会）

○実施団体：千葉大学教育学部芸術学研究室 千葉アートネットワーク・プロジェクト実行委員会（WiCAN）

○来場者数：28 名（報告会参加者数）

○参考：千葉大学教育学部芸術学研究室、普遍教養展開科目「文化をつくる」受講生を母体とした、「千葉アートネットワーク・プロジェクト（WiCAN）」では、アーティストや千葉市美術館、まちづくりNPO、小学校、商店街などとネットワークを形成し、社会におけるアートの様々な可能性を探求するプロジェクトを展開している。これまで、「社会におけるアートの意味は何か」をテーマに、アートの視点から学校を捉えなおし、新たな学校の可能性を提案するプロジェクトや、商店街の空き店舗をリノベーションして拠点をつくるプロジェクトを実施している。アートの手法を用いて地域資源を再構築し、創造していくはっちの事業と共通点が多い。

イベント連携

商店街とはっちが一体となってまちをつなぐ

○概要：商店街が主体となって打ち水を実施する「打ち水大作戦」への参加、並びにオープニングへの協力。お祭り期間中やホコテン時は、館内のものづくりスタジオ・カフェ・ショップがはっち前に出店し、普段は販売していないメニューなども販売した。

○開催時期：

はちのへホコテン：5月27日 6月24日
8月26日 9月30日

はちのへ七夕まつり：7月13日～16日

八戸三社大祭：7月31日～8月4日

打ち水大作戦：8月6日～12日

北のコナモンフェスティバル in 八戸まちなか：10月27日・28日

○共催：八戸中心商店街連絡協議会



▲11時と17時に中心商店街で一斉に打ち水を行う「打ち水大作戦」

はちのへ雛めぐり

雛人形を見ながら「まち歩き」を楽しもう

○概要：更上閣・南部会館・はっちに雛人形を展示する当企画は、年々来場者が増加し、街中のイベントの1つとして定着してきた。はっちでは、様々な人形を間近に見られるように展示したことで、多くの来場者に楽しんでいただけた。

また、子ども達がお雛様やお内裏様の格好をして写真が撮れる「なりきりおひなさま」とお茶席も多くの利用があった。



▲中心街の3会場に雛人形を展示

○実施日：[展示]平成25年3月1日（金）～3月24日（日）

[なりきりおひなさま] 3月3日（日）

[お茶席] 3月9日（土）・16日（土）

○共催・協力団体等：雛プランナー 遠藤達也、三八五交通（株）、（一社）八戸市アールアール厚生会、こどもはっち
エム・オー・エー美術文化財団八戸支部、中心街の協力店、八戸市まちづくり文化推進室

○来場者数：[展示]5,723名（24日間） [なりきりおひなさま]150名 [お茶席]169名（2日間）

本を通じて未知の世界に出会う。ライブラリで安らぎと発見を。

【ライブラリスペース】

「はっちのライブラリ」は2階・3階・4階に展開。各階ごとに趣の異なるライブラリを常設しており、蔵書数は500冊以上。貸出はしていないが、10年後に見ても新鮮な価値のある本、市内の書店や図書館であまり目にしない本を中心に蔵書している。

○2階：「八戸を知る・日本を知る」

文化や観光、八戸にゆかりがある皆さんが推薦する本のほか、八戸市長の本棚などがある。

○3階：「地元の文学者を知る・深める」

芥川賞受賞作家の三浦哲郎や郷土の詩人・村次郎の作品のほか、八戸ゆかりの方の俳句や短歌の本を自由に閲覧できる。八戸は俳句や短歌が盛んな街であることを実感できる充実の蔵書がある。

○4階：「アートやデザイン、食やものづくり、画集、雑誌」

目にも鮮やかなアートやデザインの雑誌や写真集、広告や情報発信の参考になる雑誌、大人も子どもも楽しめる絵本、服飾や暮らしの提案雑誌などが充実しており、クリエイティブな仕事のヒントになる。勉強のために訪れた高校生がそれらの本を開いている姿にたびたび出会う。感受性豊かな彼らに、大きな刺激を与えているライブラリである。



▲2階ライブラリには、地元作家の三浦哲郎の等身大パネルも。



▲4階ライブラリにはアートやデザインの書籍が充実。

【私の本棚】

人生の転機、岐路に大きな支えとなった本、そして常日頃からよく読んでいる必携の本。2階リビングでは、各分野で活躍している八戸ゆかりのみなさまから、そうしたご自身の大切な本を推薦していただき、展示している。24年度に新たに加わった、下記7名のほか、総勢18名の方の本棚がある。

○24年度に追加になった方々

伊調馨（レスリング女子フリースタイル63kg級選手） / 大谷能生（批評家・音楽家）

小原日登美（レスリング女子フリースタイル48kg級選手） / 木村聡（八戸せんべい汁研究所事務局長）

末綱太（八戸市立市民病院副院長） / 森沢明夫（作家） / 類家正人（居酒屋「ばんや」店主・詩人）



▲2階リビング「私の本棚」コーナー。



▲八戸ゆかりのアーティストによる選書も。

市民活動支援事業

トークや作品を通じて、八戸ゆかりの人々を知る

■「大人のためのお話」

- ・日時：平成24年4月8日（日）
- ・場所：はっちひろば
- ・内容：くどうなおこ作「のはらうた」をテーマに、ギター、オカリナ、カホンで演出した大人向けの読み聞かせを実施。
- ・出演：榎本志之子、小林友子ほか



■「デーリー文芸作品 遊書・杉本敦子色紙展」

- ・日時：平成24年7月1日（日）～9日（月）
- ・場所：ギャラリー3
- ・内容：地元紙「デーリー東北新聞社」の文芸コーナーで、入選した短歌・俳句等を毎月色紙書写作品にして展示をした。その作品を1年間の集大成として展覧会を開催。



■「銀座美人塾 in はっち」

- ・日時：平成24年8月11日（土）
- ・場所：シアター2
- ・内容：八戸特派大使であり、ウィミンズ・ウェルネス銀座クリニック理事長の対馬ルリ子氏を招いての、美と健康をテーマとする講座を開催。
- ・出演：対馬ルリ子、吉野一枝、吉川千明、MIYUKI



■「藤田健次の世界」

○第一章：望郷

- ・日時：平成24年9月13日（木）～9月25日（火）
- ・場所：ギャラリー 3
- ・内容：市内在住の著名な版画家藤田健次さんによる版画・漫画・エッセイの作品展を開催。

○第二章：懐郷

- ・日時：平成24年9月27日（木）～10月8日（月）



■佐々木良市コレクション「土と手と炎 民窯 無名陶工の仕事展」

- ・日時：平成 25 年 3 月 9 日(土)～18 日(月)
- ・場所：シアター 1
- ・内容：市民作家の佐々木良市さんが収集した陶芸作品の展示とトークショーを開催。



はっちサロントーク

市民が語り合う。参加者とともにつくる講座。

○概要：毎月1回、様々な分野で活躍している市民の方を講師とし、教える側と教わる側の双方に新たな発見をもたらし、新しい活動に結びつくような、参加者対話型のトーク・ツアー事業を実施。

○実施内容：

1) 演劇クロストーク～まちを元気にする演劇の魅力～（平成24年6月21日）

・場所：シアター2

・内容：盛岡の演劇活動・文化のまちづくり活動の中心人物である坂田氏を講師に、市内の演劇関係者等と八戸での演劇活性化・演劇によるまちの活性化について対話（約20名）

・講師：坂田裕一（岩手県演劇協会会長、盛岡市中央公民館長）、榎谷伸夫（はちのへ演劇祭実行委員長）



▲坂田裕一氏による講演の様子



▲榎谷伸夫氏。はちのへ演劇祭 立ち上げに向けての抱負も語られた。

2) ヘエヘエウォーキングツアー（8月19日）協力：まちなかミュージアムワークショップ

3) 八戸カクテルツアーズ（9月6日）協力：八戸市長杯カクテルコンペティション実行委員会

4) 南郷の秋の楽しみ方（10月11日）協力：八戸市青葉湖展望交流施設「山の楽校」

5) 映画鑑賞と映画トーク（11月8日）協力：フォーラム八戸

6) 出張！面白南部分講座＆講習会（12月13日）協力：コミュニティラジオ局BeFM



▲ヘエヘエウォーキングツアー



▲出張！面白南部分講座＆講習会

和日カフェ～日本文化に親しむ日～

毎月第3日曜日は日本文化に親しむ日「和日（わび）カフェ」

- 共催・協力団体等：八戸市文化協会所属団体、はちえきキャンバス in 八日町等
- 来場者数：おおよそ 3,100 名
- スタッフや関わった市民の数：おおよそ 200 名（@20×10 回）

○概要：和日カフェは、平成 23 年度から日本文化に関わる諸団体との連携を通じ、市民力により開催している。

平成 24 年度はプロデューサー企画と称し市民公募企画を 2 回実施した。ほかにも、各月ごとにテーマを設定し、一貫性があるイベントとなるようしかけを施した。

事業は、①市民が日本文化に触れ・楽しむ、②活動分野の紹介、③実施者の活動披露の場、④着物でおしゃれして出かける機会の創出を目的に継続実施しており、参加者アンケートなどから事業の認知度や関心の高まりが感じられる。

■4月15日

朗詠、日舞公演・体験、茶席、着付けワンポイントアドバイス、着物でランチ

- ・協力団体：八戸岳智会 慧風支部、料理茶や 八重さわ、全日本きもの学院 院長 市澤 敬子、泉流 紫峰会彩菜会 MOA お茶のお稽古会



▲春の訪れを感じる日舞の公演。



▲お茶席は定番の人気企画。

■5月20日：テーマ「源氏物語」

源氏物語（着物・帯展示）、和菓子作り、茶席、いけばな、雅楽演奏、着物でランチ

- ・協力団体：むらかね、成田株式会社、味ごよみ むらた、大黒 亜紗子、根城史跡ボランティアガイド、青森県芭蕉流 煎茶道八戸支部、やまびこ工房 明堂 寿、菜膳わたすげ 女将 山本康子、日本生花司松月堂古流青森県支部



▲和菓子作りを気軽に体験。子どもたちの参加もあった。



▲雅楽の音階等について解説を加えながら、大黒亜紗子さんによる演奏。

和日カフェ～日本文化に親しむ日～

■6月17日：テーマ「恋」

古典文学、日舞公演・体験、箏・尺八ミニコンサート、茶席、いけばな、てんぼせんべい作り、モヨッテランチ

・協力団体：日本料理 太一、青森県芭蕉流煎茶道八戸支部、泉流 紫峰会、泉流 彩菜会、日本生花司松月堂古流青森県支部、上館せんべい店、外崎充子（八戸短期大学教授）、生田流箏曲松の実會青森県支部松操会、都山流尺八 爽竹会、櫻井潤子



▲八戸の食文化のひとつ、てんぼせんべいを焼く体験



▲重量感のある鉄のせんべい焼き機に参加者も一苦労。

■8月19日：テーマ「夏」

和太鼓ライブ・体験、俳句、投扇興体験、茶席、いけばな、モヨッテランチ

・協力団体：創作和太鼓 奏、碧螺春(ピロチュン)、投扇興を楽しむ会、小原流八戸支部、江戸千家遥遊庵宗郁、青嶺俳句会、薫風、たかんな俳句会



▲和太鼓公演には八戸出身の木村寛太さんが出演。



▲投扇興の道具や所作のひとつひとつに日本文化を感じることができる。

■9月16日：テーマ「月」

篆刻体験、和菓子作り、茶席、いけばな

・協力団体：NHK文化センター八戸教室「篆刻入門」（篆刻作家 堀内青巒）、江戸千家不白会八戸支部、龍生派八戸支部、お菓子処丸美屋



▲なかなか体験することのない篆刻の体験に多くの方が参加。



▲細かい作業に最後まで根気よく取り組む参加者。

和日カフェ～日本文化に親しむ日～

■10月21日：テーマ「秋のよそおい」

日舞映像上映・体験、茶席、いけばな

・協力団体：泉流紫峰会、泉流彩菜会、市山松扇氏（弧の会代表）、松本流「幸紫会」、裏千家武輪社中 山田宗美氏、一葉式いけば花青森県支部



▲子どもも気軽に日本文化に触れられる、いけばなの体験。



▲竹を使ったいけばなに季節を感じる。

■11月18日：テーマ「漢(おとこ)」

民謡と三味線、合気道体験、日本酒講座、俳句講座、将棋教室・対局、モヨッテランチ

・協力団体：やま文、八戸南部芸能 滝田社中、合気道 八戸道場、青嶺俳句会、薫風、たかんな俳句会、日本将棋連盟おいらせ支部、大山将棋記念館、山本泰彦（八戸酒類株式会社 八鶴工場長）



▲合気道体験。子どもたちも気軽に体験。



▲女性や大人も多く参加し護身術を学んだ。



▲将棋の指し方を学ぶ子どもたち。



▲実際に対局にも挑戦。

和日カフェ～日本文化に親しむ日～

■12月16日：【プロデュース企画：梅后流江戸芸かつぼれ八戸教室師範 櫻川梅福】

和菓子作り、江戸芸かつぼれ、津軽三味線ライブ・体験、フェルトで繻玉作り、落語公演、茶席、いけ花
・協力団体：梅后流江戸芸かつぼれ八戸教室 師範 櫻川梅福、山本康子（菜膳わたすげ）、松田隆行、大地球（財）小原流八戸支部



▲かつぼれの歯切れのよいリズムに会場も盛り上がった。



▲八戸在住の落語愛好家・大地球さんによる落語。

■1月20日：【プロデュース企画：はちえきキャンパス in 八日町】

着付&ワンポイントレッスン、木目込人形作品展・体験、書道作品展、料理教室、写真（和装で写る際のポイント）、茶席
・協力団体：小笠原洋子（装道）、裏千家 武輪宗志 社中、大久保孝啓（太平写真部）、大橋 玉樹、細越 玉蓮（臨泉会）、藤野 真葵艶、角浜 ミツ



▲木目込み人形の体験には多くの方が参加



▲春を感じるお茶席

■3月17日：テーマ「春」

きものショー、飾り手巻き寿司作り、日舞（公演）、用の美（民窯・陶工展）、茶席、いけ花

・協力団体：山路利津子きもの着つけ教室 講師会、草月会青森県支部、江戸千家不白会 八戸支部、泉 紫峰社中、泉 彩菜社中、佐々木良市、東館 久美子（林学園 林料理学校 講師）



▲着物ショーには幅広い年齢層が参加し華やかに。



▲反響の大きかった飾り巻き寿司作り。

はっち流騎馬打毬 (アーティスト: KOSUGE1-16)

騎馬打毬×ロボコン! 再発見された伝統武芸の魅力



▲八戸三社大祭期間中に長者山新羅神社にて毎年開催される「加賀美流騎馬打毬」。

○概要：

八戸市に 200 年以上伝わる伝統武芸「加賀美流騎馬打毬」。馬に乗って毬杖を操り、門へ入れた毬の数を競う勇壮な武芸である。かつては全国にあった騎馬打毬も現在は宮内庁・山形、そしてここ八戸の 3ヶ所に残るのみ。その中でも八戸の打毬は、長い毬杖を使う独特のもので、毎年 8 月 2 日に市内の長者山新羅神社で試合が行われている。

アーティストユニットの KOSUGE1-16 は、この騎馬打毬に着目し、アートプロジェクト「はっち流騎馬打毬」を企画。この名称には「はっちならではの方法で、騎馬打毬という伝統文化を誰もが追体験でき、その素晴らしさを知ることができる」という意味が込められており、騎馬打毬の現代性やスポーツ性、南部地方の馬文化など、多角的な切り口とユニークなアイデアによるプログラムでこの伝統武芸に新たな光を当てたものである。

約 1 年にわたった本企画のメインとなったのは、市民が 60 名以上参加して熱戦を繰り広げた「はっち流騎馬打毬トーナメント大会」。騎馬打毬をモチーフとして、騎馬型ロボットによるゲームを市民参加で行うもので、このアイデアの源泉は市内の教育プログラム「八戸中学校ロボコン」にある。中学生がロボットを自作して競うという全国的に注目を集める取り組みで、これも八戸地域が誇る文化の一つである。

「はっち流騎馬打毬」では、この「伝統武芸×ロボコン」のように、異質なものが「騎馬打毬」という 1 点を結節点として出会うことで、新たな人やアイデアの交流が生まれた。八戸騎馬打毬会×八戸中学校ロボコン×八戸工業大学、映像作家×南部の馬文化…。騎馬打毬自体にも講座や観戦ツアーなどによって新たな眼差しが投げかけられ、その魅力が再発見された。

また、ロボコン大会の興奮や、映像作品「馬と人間」(監督: 大沢未来) だけではなく、その制作プロセスで生まれたものにも大きな価値があり、平成 25 年以降も継続開催となった騎馬打毬観戦ツアーや、市民主導となって継続中の参加型ロボコン大会など、制作の中で生まれたアイデアや交流はプロジェクト終了後も盛り上がりを見せている。

はっち流騎馬打毬（アーティスト：KOSUGE1-16）

○実施日：平成 24 年 4 月～25 年 2 月

○実施プログラム：

■加賀美流騎馬打毬をもっと知って楽しもう！初心者向け騎馬打毬講座
実施日：7 月 26 日（木）

■初心者歓迎！加賀美流騎馬打毬をみんなで見に行こう！ツアー
実施日：8 月 2 日（木）

■「はっち流騎馬打毬」スタート！展
実施日：7 月 30 日（月）～8 月 16 日（木）

■ドキュメンタリー映像「馬と人間」制作・上映会
制作期間：平成 24 年 5 月～25 年 2 月

■試写会 8 月 9 日（木）

■上映会 実施日：2 月 1 日（金）～3 日（日）計 8 回
2 月 16 日（土）・17 日（日） 計 5 回上映

■騎馬打毬ロボット制作ワークショップ
実施日：1 月 26 日（土）・27 日（日）・2 月 2 日（土）・3 日（日）

■はっち流騎馬打毬トーナメント大会
実施日時：2 月 11 日（月・祝）

■プロジェクトの歩み展

実施日時：第 1 期 1 月 25 日（金）～2 月 11 日（月・祝）

第 2 期 2 月 13 日（水）～2 月 24 日（日）



▲子どもも大人も一緒になって熱戦を繰り広げた。

はっち流騎馬打毬（アーティスト：KOSUGE1-16）



○協力：八戸騎馬打毬会、長者山新羅神社、八戸工業大学、
コミュニティラジオ局 BeFM

○はっち流騎馬打毬ロボット制作協力：

八戸中学校ロボコン 下山大（八戸東中学校）

八戸中学校ロボコン 広住仁（是川中学校）

○はっち流騎馬打毬ロボット大会運営システム構築：

山口広行＋研究室学生（八戸工業大学）

○スタッフや関わった市民の数：

騎馬打毬講座 参加者：約 30 名

加賀美流騎馬打毬をみんなで見に行こう！ツアー 参加者数：29 名

ドキュメンタリー映像「馬と人間」制作・上映会

試写会 参加者数：約 20 名

上映会 参加者数：約 400 名（8 回上映合計）

騎馬打毬ロボット制作ワークショップ 参加者 約 60 名

はっち流騎馬打毬トーナメント大会 150 名



はっち流騎馬打毬（アーティスト：KOSUGE1-16）

【アーティストプロフィール】

○KOSUGE1-16（アーティストユニット）

車田智志乃、土谷亨の2人によるアーティストユニット。2008年岡本太郎現代芸術賞受賞。日常のありふれた環境や、現象、人のつながりを作品制作のきっかけに、作品を介在させることで鑑賞者を参加者として変質させ、参加者同士、あるいは作品と参加者の間に「もちつもたれつ」という関係性を構築している。アートが身近な場所で生活を豊かにしていく存在として成立することを目的にしている。<http://www.kosuge1-16.com/>



▲騎馬打毬、ロボコンに関わる人々などさまざまな市民とコミュニケーションを重ね、プロジェクトを作り上げていった。

○大澤未来（ドキュメンタリー映像「馬と人間」監督）

1981年生まれ。映画美学校でドキュメンタリー映画を学ぶ。主な作品に『帰郷-小川紳介と過ごした日々-』（共同監督・山形国際ドキュメンタリー映画祭 2005 出品）、『民家移築再生全記録』（監督）、映画制作ワークショップ「記憶の手触り-川口と出逢う-」（共同指導）、NHK『にっぽんの心の仏像』『巨匠たちの肖像円空』などを制作。



▲馬とともに生きる人々の姿を丁寧に取材した大澤さん（写真中央）

酔っ払いに愛を～横丁オンリー・ユーシアター～

横丁空間を劇場に～市民協働プロジェクト～



▲南郷アートプロジェクトから、ダンサーの森下真樹さんらが出演



▲「大黒屋さんと伊藤屋さん」（八戸）は元スナックで芝居を。



▲仙台を拠点に活動する短距離男道ミサイルの現代劇のパフォーマンスは、周辺のお店の方々にも喜ばれた。

○実施日：平成 24 年 9 月 7 日(金)～9 日(日)

○概要：

八戸の中心街にある8つの横丁には、昭和の始めから小さな店がひしめきあうように連なった独特のエリア。この横丁にはかつて、最盛期で8つもの映画館、劇場が立ち並んでいた時代があったことから、横丁のお店の中や路地を劇場に見立てて、ダンス、演劇などさまざまなショートパフォーマンスを行うもので、4回目の開催となった。観客は全ての会場をハシゴすることのできるフリーパスを手に、10会場で繰り広げられるパフォーマンスを、好きな順番に見て回る。平成24年は2日間にわたって10組の出演者が登場し、例年出演している常連のアーティストのほかに、全国から公募で集まった気鋭のアーティストも加わり盛り上げた。また、お店の中だけでなく横丁の路上でもパフォーマンスを行うことで、このイベントを知らない街行く人々の目にも触れた会場もあった。

この「酔っ払いに愛を～横丁オンリーユーシアター～」は、「市民協働プロジェクト」として、はっちと横丁を中心とした商店街関係者等が実行委員会形式で運営しているものである。パフォーマンスをする会場の選定やオーナーへの依頼、横丁のお店への周知など、普段から横丁をよく知る実行委員のノウハウと、アーティストの選定や広報などに関してははっち側のネットワークを生かして運営をしている。また、はっちにはアーティストが長期間滞在できるレジデンススペースやスタジオがあり、はっちがオープンしてからアーティストの制作活動とそのサポートがしやすくなったというメリットがある。また八戸の横丁は貴重な観光資源でもあり、さまざまな団体やお店が主体となって多様な催しが行われているが、それらを一定期間にまとめて行き発信力を高めることを目的に「はちのへ横丁ウィーク」を、今年初めて行った。横丁の Bar を飲み

酔っ払いに愛を～横丁オンリー・ユーシアター～

歩く「カクテルツアーズ」や、独身男女が参加できる街コン「DeIMAX(出会いマックス)」、主に東北の被災地の屋台がみろく横丁に出店する「出前屋台」など、さまざまなイベントが日替わりで開催された。「酔っ払いに愛を」ではアートで楽しい横丁を、またその他のプログラムでも新しいお店を発見したり街の由来を知ったりと、参加者がそれぞれに楽しむことができる取り組みとなった。(次ページに詳細を掲載)

○主催：酔っ払いに愛を実行委員会、八戸市（八戸ポータルミュージアム）

○共催、協力団体等：八戸横丁連合協議会

○出演者：斉藤栄治、十日市秀悦、大地球、南郷アートプロジェクト（森下真樹・山崎麻衣子・笠井晴子・沢代キュートン）、大黒屋さんと伊藤屋さん、短距離男道ミサイル、千田優太、金子愛帆、大庭れいじ、三浦千鶴

○スタッフや関わった市民の数：60 名

○来場者数：約 1800 名



▲仙台から参加のダンサー・千田優太さんは、全身をガムテープで覆ったパフォーマンス。横丁の路上にも登場し、お店の方や通りがかりの学生など多くの人の注目を集めた。



▲ダンサーの斉藤栄治さんは 3 年目の出演。



▲公募枠で出演のダンサー・金子愛帆さんは、ガラス張りの空間を生かしたパフォーマンスを披露。

はちのへ横丁ウィーク

八戸の宝、大切な横丁文化の継承と盛り上げに、関係団体が結集！



○概要：「はちのへ横丁ウィーク 2012」と題して、それまで開催してきた横丁関連イベントに新しい企画を組み合わせ、初めて同時期に集中して実施することで、関係団体間の横丁に対する意識の共有が図られ、連携していくきっかけとなった。共同での記者発表や、オープニングイベントで各イベントの主催者がそれぞれ PR を行うなど、単独で開催していたとき以上に効果的な PR を行うことができた。また、八戸の横丁が全国的に見ても魅力的な、次代に残していきたい市民遺産とも言える空間であることを、市民や観光客に認識していただく新たなステップにもなった。「横丁」をキーワードに、それまで個別に活動してきた団体が、ゆるやかにつながって、横丁振興という共通の大きな目標に向けた大きな一歩となった。

○平成 24 年 9 月 1 日(土)～9 月 9 日(日)

○主催団体：八戸市（八戸ポータルミュージアムはっち）、酔っ払いに愛を実行委員会、(社) 八戸観光コンベンション協会、八戸横丁連合協議会、全国屋台村連絡協議会、DeIMAX 事務局、ムーンブラザ

○実施イベント：■DeAIMAX（デアイマックス）（9 月 1 日）

- のんべえクーポン第 5 弾（9 月 1 日～30 日）
- 長横町ブルースライブ（9 月 4 日）
- 全国屋台村の出前出店（9 月 2 日～4 日）
- 八戸横丁講座(9 月 5 日)
- ガイド付き横丁ツアー(9 月 3 日・5 日・7 日)
- 八戸横丁連合飲みだおれラリー(9 月 6 日)
- 八戸カクテルツアーズ(9 月 6 日) ■酔っ払いに愛を～横丁オンリーユアター～(9 月 7 日～9 日)
- テッテイ討論！横丁フォーラム in はっち(9 月 8 日) ほかオープニング、エンディング 計 12（実施イベント順）

アートイベントプロデュース入門講座

八戸をもっと面白く！プロジェクトを企画する人材を育成。

○概要：アートに興味のある方から、とにかくイベントをやってみたいという方まで、幅広い方々を対象としたアートイベント運営の基礎講座。企画や広報のことを学ぶ講義から、照明や舞台まわりのことを学ぶ舞台技術講座、市内アートスポットを巡るフィールドワークなど、バラエティに富んだ内容を実施。3月には各受講生が考えた企画の発表会も開催。受講生の中からイベントボランティアへの参加者や、独自イベントを立ち上げる人などが現れ、講座をステップとして他の活動へと発展する姿もみられた。

○講師：吉川由美（八戸ポータルミュージアム文化創造ディレクター）

○講座参加者数：21名

○実施日：平成24年9月～平成25年3月

9月27日(木)第1回 心を動かすイベントをプロデュースしよう～イベント成功のコツ

9月28日(金)第2回 制作のプロセスが成功を導く～本番までの道のりを学ぶ

10月18日(木)第3回 ステージイベント基礎講座①～バックステージツアー／ステージイベントのための基礎学習

10月19日(金)第4回 ステージイベント基礎講座②～舞台技術の基礎実習／音響照明実習

10月28日(日)第5回 空間活用による魅力的なイベントをプロデュースする～まちをおもしろくするアートイベント

11月9日(金)第6回 プレスリリース講座～PRのコツ

12月6日(木)第7回 企画を創る～プロデュースにチャレンジ

1月18日(金)～1月20日(日) 企画相談会～マンツーマンアドバイス(1人30分程度の面接)

2月 プレゼンに向け随時個人トレーニング

3月23日(土)プレゼンテーション大会・審査・講評



▲「八戸を元気にしたい」とそれぞれが熱い想いを胸に参加した。



▲舞台に必要な音響や照明などの技術をプロから学ぶ機会も。



▲市内の歴史的建造物などを巡り、こういった場を活用してどんなアートプロジェクトができるかをメンバーそれぞれに考えた。



▲メンバー1人ひとりの企画を発表するプレゼン大会も実施。

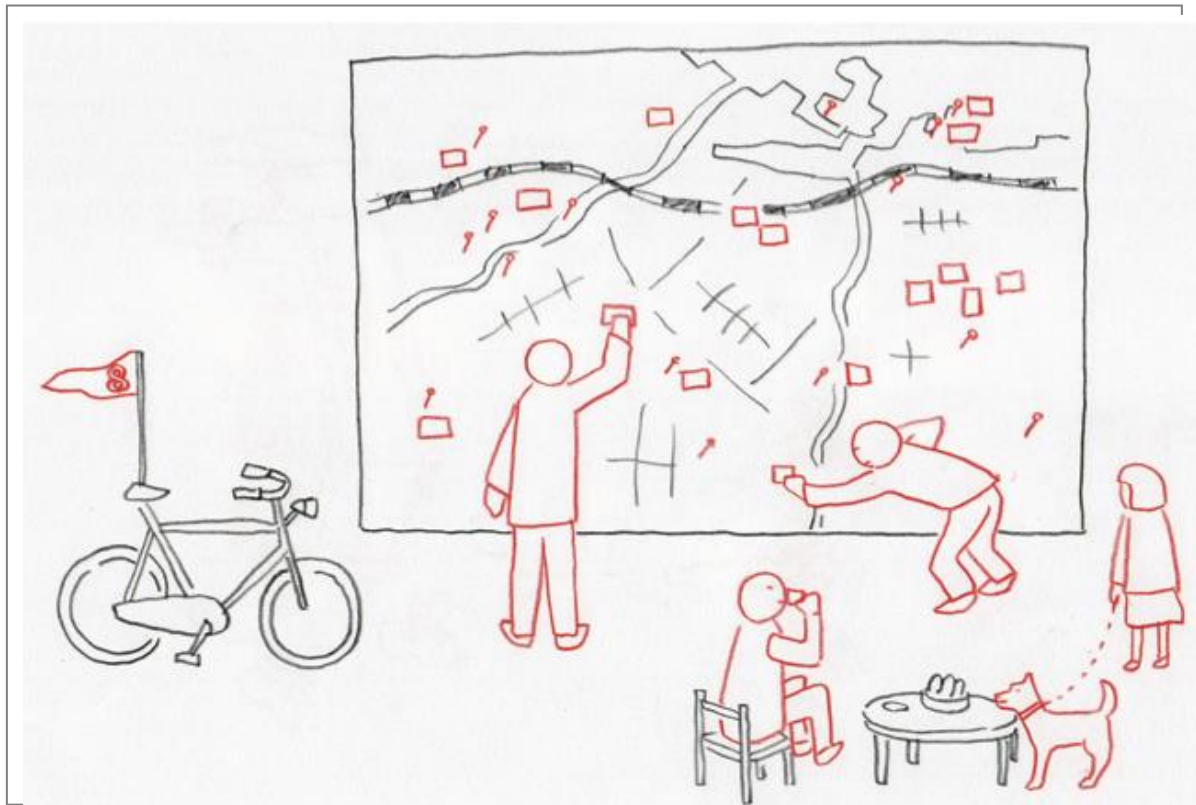
アーティスト・イン・レジデンス公募

八戸の魅力を引き出すアーティストを全国公募！

○概要：地域の活力や魅力を引き出すことのできるアーティストを発掘することを目的に、平成 25 年度レジデンスアーティストを全国公募した。はっちでは初の試みだったが、国内各地はもとより海外在住の方からも多数の応募があった。その中から選出したのはアーティストユニットの「ポーワング」による「ツール・ド・八戸」。自転車に乗って八戸の魅力を探し出すというユニークなアートプロジェクトで、新たな才能やアイデアに出会えるきっかけとなった。

○実施期間：平成 24 年 8 月～平成 25 年 1 月（公募から審査まで。事業実施は 25 年度）

○応募数：9 組



▲アーティストユニット「ポーワング」の企画提案書「ツール・ド・八戸」。市民参加型で市内のおもしろい場所の情報を集め、自転車でツアーを行うというもの。（25 年度に実施）

▼公募チラシ。市内関連施設のほか、県外の文化施設などに配布。



第1回はちのへ演劇祭

八戸の演劇人が大集結！ 演劇三昧の3週間

○概要：かつては高校演劇のメッカでもあり、「演劇の盛んなまち」として全国的にも注目を集めていた八戸の演劇は、いまや劇団や劇場が激減し、若者が演劇に関わる機会がなくなっている。このため、劇団で活躍していた市内の社会人や高校演劇関係者が集結し、演劇に携わりたいと考えている市民を公募して演劇祭を開催した。開催にあたり、キャスト、スタッフ、サポーターを市民から公募し、社会人と高校生による短編・長編の演劇を3週間にわたって上演し、延べ1,000名を超える観客が詰めかけた。この演劇祭に参加した若手の有志が実行委員会を結成し、翌年以降に若手主体の演劇祭を実施することとなり、初期の目的を達成することができた。

○開催時期：平成24年10月23日～11月11日（第1週 短編演劇、第2週 高校演劇、第3週 一般長編演劇）

○スタッフや関わった市民の数：90名（長編・短編出演者、高校演劇出演者、裏方スタッフ等）

○来場者数：1,185名（15ブロック公演計）

○上演内容：

【短編作品】①レフト・アームズ・ストーリー ②自動車学校 ③リュックシャック ④サルビア ⑤臨界点 ⑥聞き屋 ⑦コーヒー ⑧最終面接 ⑨宝箱 ⑩蟬螂少女の恋 ⑪電柱 ⑫月を運ぶ（上演日程順）

【高校長編演劇】①私たちの銀河鉄道の夜（八戸北高等学校） ②Z伝説（八戸工業高等専門学校）
③あなたは幸せですか？（八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校）

【一般長編演劇】銀河鉄道の夜へ

○主催団体：はちのへ演劇祭実行委員会・八戸市（八戸ポータルミュージアム）

○協力：青森県高等学校文化連盟演劇部三八・上北支部 ※事務局：八戸ポータルミュージアム



▲長編演劇「銀河鉄道の夜へ」



▲出演者の稽古風景。連日熱のこもった練習が行われた。長編演劇演出の平段健悦氏による指導風景。



▲短編作品「聞き屋」。平日の夜、連日複数の小編を楽しめるプログラムが好評だった。



▲短編作品「リュックシャック」。

はちのへ演劇祭

○事業を終えて（実行委員の振り返りより）

- ・東京で活動のダンスグループや十和田市の劇団、三戸町、階上町等の住民の方々が公募により参加し、幅広いネットワークができた。
- ・今回の参加者の中で、演劇創りに興味を持った者や役者魂が再燃した者が多く、新規劇団による公演を企てていることから、新たな演劇、劇団創りのきっかけとなった。
- ・期間中 1,000 名を超す入場者で、八戸ポータルミュージアムでの演劇鑑賞した後向かいの横丁で感想などを話す「演劇の会話がある街」になり、中心街での観劇の楽しみ方を確認してもらうきっかけとなった。
- ・演劇関係者の再度のネットワーク化と、高校演劇との世代を超えた共同開催を通じて、眠っている三八地域の地域資源とも言える、演劇の活性化が図られ、高校生への教育的効果と地域文化の振興が期待できる。
- ・高校演劇出身者、大学演劇経験者で県内に戻っている若者を初めとした市民に対して、演劇出演・鑑賞機会を創出することで、文化の求心力による地域への愛着が高まる。また、経験豊富な社会人が演劇公演について一連のプロセスを通じた支援を行うことで、演劇祭をきっかけに、若者による新劇団創設などの更なるチャレンジを促進することができる。
- ・空き店舗や八戸ポータルミュージアムなどの公共施設、中心街の遊休施設を積極的に活用することで、中心街での新たな表現活動に先鞭をつけ、多彩な人材が中心市街地の活性化に携わるきっかけが生まれる。
- ・今回の演劇祭をきっかけに、25 年度も引き続き若手を中心に演劇祭を開催しようという動きが出ている。また、演劇祭に限らずそれぞれの劇団や仲間同士が単独で公演を行うなど、活発な動きが生まれている。



▲長編作品「銀河鉄道の夜へ」。公開オーディションを経た演劇初心者や若手、ベテラン勢など、多様な人々が参加し作り上げた。今回の演劇祭の実行委員長で、八戸の演劇界を引っ張ってきた柗谷伸夫さんも出演。（写真右下）

ものづくりスタジオとは

作り手の手仕事を間近でみながら買い物ができる、工房兼ショップ

○概要：はっちの2階・3階・4階に“屋台”のように点在する「ものづくりスタジオ」は、八戸のものづくりの伝統継承と新たな価値創造がテーマのアトリエ兼ショップ。最長3年の入居期間を経て、中心街に出店することを目標としています。

【フー ド】2階、食のものづくりスタジオに入居していた「揚げたて！うみねこキッチン」は、空き店舗に移転が決定し3月に卒業。現在ははっちから徒歩3分の場所で「街カフェみなと」として営業中。

新しく2階には4月より「たまに庵」が入居。

【クラフト】4階のものづくりスタジオには新しく「おもちゃハウスくれよん」・「虹灯～nijiakari～」の2店舗が4月にオープン。

○24年度 ものづくりスタジオ入居者一覧

クラフト	maison de fanfare （服飾）	※平成25年2月末卒業 現在拠点を東京に構える
	おもちゃハウスくれよん （おもちゃ）	
	虹灯～nijiakari～ （口ウソク）	※平成25年7月末卒業 中心街チーノに移転
	南部菱刺研究所・つづれや （南部菱刺）	※平成25年3月末卒業 自宅に工房を構え活動中
	LANDPROTECT （漆/jewelry）	※平成26年2月末卒業 市内に工房を構え活動中
	工房「澄」 （南部裂織）	
	codecake （布・雑貨）	※平成25年8月末卒業 自宅に工房を構え活動中
フー ド	たまに庵 （和カフェ）	※平成25年5月に卒業し、現在は1階カフェに移転リニューアルオープン
	里山夢食堂 （健康料理）	※平成26年3月末卒業 八戸市公会堂に移転
	very berry juice （フレッシュジュース）	
	りんごの木 （健康料理）	



▲ものづくりスタジオ24年度入居の作家のみなさん

ものづくりスタジオ支援

ものづくりスタジオ入居者を支援。八戸のものづくりの中核を担う人材の育成。

○概要：初年度は、市民にもものづくりの楽しさ・面白さを伝えるため、月に1度ものづくり体験を行い、ものづくりスタジオのファンを集ってきた。2年目はより一歩踏み込み、市民ファン開拓とものづくりスタジオ入居者にとってプラスとなる事業を行った。

【HAND!FOOD!!MUSIC!!! in はっち（4月28日）】

ものづくり体験にフードと音楽も交え、バラエティに富み充実していた。

【HAND!FOOD!!MUSIC!!! in イオン下田（6月30日～7月1日）】

初のものづくりスタジオアウトリーチを実施。普段出会わない層のお客様に多く出会い、ものスタ・はっちの周知に効果的なイベントとなった。

【もの labo（10月1日～3月31日）】

手仕事に親しむ長期のものづくり講座を実施。ものづくりスタジオ入居者ごとに、プロの手仕事や伝統工芸などを学び体感しつつ、より作家とお客さんとの距離を縮められる継続的なオリジナルのプログラムを作成し、長期にわたったワークショップを開催した。

【手仕事人の小さな暮らふと市（3月22日・23日）】

地元、八戸市近隣（約80km圏内）で活動するものづくり作家の為のクラフト市。ものづくり文化・価値の普及と若手ものづくり作家支援を目的とし、はっちひろば・ギャラリー1にて初開催。21名の作家が参加し、2日間で約8000名の来館者でにぎわった。



▲ゴールデンウィークには、親子でものづくりを体験できるワークショップも開催。裂織り体験は大人気。



▲小学生や女性に人気のあった、ピーズアクセサリーの制作体験。



▲家族連れなど多くの人が集まる場所でのイベント。各ショップのPRにつながった。



▲八戸近郊で活動するクラフト作家が参加した「手仕事人の小さな暮らふと市」。

はっち市

県南地方最大のクラフト市



○概要：「はっちがちっちゃな街になる」をテーマに、全国から公募したクラフト作家・飲食店が参加して、はっち全館を使った県南地方では最大級のクラフト市を開催した。

陶磁器・ガラス・金属加工・木工・染織り・粘土・漆工・皮革加工・布・洋服・竹工芸など、さまざまなジャンルのものづくり作家が、北は北海道から南は九州まで 82 名参加し、まるではっちが小さな街になったように館内各所に楽しいお店が出展され、飲食ブースも各所に設置し、朝市の名店やアウトドアの料理、ブラジル・ポルトガル・イタリア・フランスなどの各国の珍しい料理も提供した。

この他、様々なジャンルのライブや、ドキュメンタリー映画の上映とトークセッションなどを開催したほか、「ピグミーの樹皮（じゅひ）布（ぬの）～アフリカのふんどし」と題した展示会、こどもはっちによる職業体験も開催し、賑わいを創出した。また、県内外からの来館者をお迎えするため、近隣に観光客向けの特設ブースを設けて対応を行った。

期間中は3日間で約22,000名もの来場者があり、多くの方々に手作りの大切さや面白さを体感していただいた。

○開催時期：2012年11月23日(金祝)～25日(日)

○スタッフや関わった市民の数：実行委員15名、出展者（クラフト82名、フード15名）

○来場者数：3日間で約22,000名



▲カラフルなフェルトのマフラー、小物（masatiasati・岩手県）



▲革で作られた動物がユニーク。（アトリエ金田・東京）



▲2階館内の様子。たくさんのお客様でにぎわう。



▲グッチオープン料理、アウトドア体験も。（ノースビレッジ・青森）



▲2階ギャラリー2、子どもたちが自由に絵を楽しむ「ちびっこアートひろば」。



▲オープニングを飾った「はっちワンパクサンバ隊」。

お祭り in はっち（八戸三社大祭）

はっちらしく三社大祭の魅力をアピール



▲はっちの後夜祭。ライトアップした山車の上で音楽の演奏。



▲はっちひろばからの山車の搬出



▲「たいこでドン！」小太鼓体験も人気のプログラム



▲和紙人形展。本物そっくりの生き生きとした作品。

○概要： 八戸三社大祭の関連企画を実施し、お祭りの新たな魅力や楽しみ方を提供した。

【三社大祭をもっと楽しむ】お祭り前に、歴史や見どころなどを学ぶ事前講習を実施。

【お祭りパネル展】三社大祭の起源や三神社の行列内容解説、時代ごとの山車の様子などを分かりやすく展示した。

【小太鼓体験～たいこでドン！～】お囃子の練習映像を見ながら、実際に太鼓を叩ける人気企画。

【創作和紙人形展～お祭りがやってきた～】現存している芸能などが含まれた昔の三社大祭の行列が再現された。

【写真展～十一日町龍組の夏～】写真家の中村佳代子氏によるお祭り本番までの写真を全館に展示した。また、実際に山車組が作成した龍などの飾りを展示したことで、多くの方が楽しめた。

【山車展示（7月31日～8月4日）】祭り期間中は、はっちひろばを山車小屋に見立て、山車の出し入れを行うことで、市民や観光客の前で擬似的に山車小屋を再現。

【はっちの後夜祭（8月5日～8日）】展示中の山車をカラームービングライトでライトアップし、グラミー賞ジャズピアニストのデヴィッド・マシューズ氏作曲の音楽をマシューズ氏と地元ミュージシャンや長横町粋組のセッションにより演奏、制作したCDをBGMとして流した他、市内で活動するミュージシャンによるミニライブを日替わりで開催するなど、館内ショップの出店による軽食やドリンクと併せて、祭りの後も三社大祭の新しい楽しみ方を提案、たくさんの方の市民や観光客に楽しんでいただいた。

○開催期間：平成24年7月31日（火）～8月8日（水）

○協力団体等：長横町粋組、八戸共作連山車組、デヴィッド・マシューズ氏ほか市内在住ジャズミュージシャン、八戸市博物館、社団法人八戸観光コンベンション協会、八戸市職員互助会、おがみ神社、長者山新羅神社、神明宮、デーリー東北新聞社、和井田良子、古舘光治、中村佳代子

○来場者数：7月31日～8月4日 合計 33,939名 / はっちの後夜祭（8月5日～8日）約 150名

えんぶり in はっち

はっちでえんぶりを身近に。見て、体験できるはっちのえんぶり。



▲はっちひろばでのえんぶり公演。7組のえんぶり組が日替わりで登場。



▲春の訪れを告げる太夫たちの勇壮な舞。



▲和井田良子氏による和紙人形展。



▲太夫や子どもの祝福舞の衣装を身に付ける着付け体験は大人気企画。

○概要

【えんぶり公演】えんぶり期間中に、全7回の実演を実施。暖かい室内で迫力のある「摺り」を間近に見られるとあって毎回、立ち見が出るほどの満員だった。また初の試みとして紙吹雪を降らせ雪の中で摺っているように見える演出をした。

【えんぶり体験】「太夫」および子どもの舞である「松の舞」の着付け体験を実施し、多世代が楽しめる・興味を持てるようにした。また、着付けを市民の方々と一緒に行い衣装や烏帽子の着付け方からえんぶりにより興味を持っていただけた。

【春を呼ぶ創作和紙人形展】市内の創作和紙人形作家による、明治時代のえんぶりを再現した和紙人形展を実施。烏帽子のサイズなど、現在と違う部分を学べる場となった。

【市民作家に会える】館内に常設展示されている、えんぶり作品を作成した作家のお話を実際に聞ける場を創出。来館者は作り方や作成までの裏話が聞ける場に、作家は作品をよりアピールできる場となった。

【その他】えんぶり本番までの映像が見えるシアターや、お休み処を設置し休みながらえんぶりが楽しめるように配慮した。また、館内の店舗にえんぶりを題材にした切り絵などを飾り、えんぶりの雰囲気盛り上げた。

○協力団体等：八戸市庁郷土芸能保存会・内丸えんぶり組、高橋寛子・下崎雅之、和井田良子、八戸地方えんぶり連合協議会、売市・妙・中居林・東十日市・内丸・大久保えんぶり組、NPO 法人はちのへ未来ネット

○来場者数：えんぶり公演：約 700 名（1 回の公演約 100 名×7 公演）/えんぶり体験：127 名（17 日：49 名 18 日：34 名 19 日：21 名 20 日：23 名）/一斉摺り時ベランダ開放：約 60 名（17 日のみ）/お休み処「えんこえんこ」：約 400 名（期間中合計）

テッテイ討論！横丁フォーラム in はっち

ツイッターと「いいね！」札で、テッテイ的に討論！

○開催日時：平成 24 年 9 月 8 日（土）15:30～18:00

○概要：「未来へつなげよう！八戸の横丁文化」をテーマに、横丁ウィーク連携企画として開催。横丁に関する著書などがある桑原才介氏や星野リゾートの佐藤大介氏、地元長横町出身タレントの十日市秀悦さんらパネリストから、八戸の横丁の特徴や、より魅力的な横丁にするための自身の経験から得た提案が出された。また、「いいね！」札の使用や、ユーストリーム中継を行ったことで、会場やネット上からも様々な意見が出され、テッテイ討論ならではの、参加した誰もが言いたいことを言える雰囲気と熱気が会場を満たした。

【パネリスト】桑原才介（桑原経営研究所株式会社 代表取締役）、
佐藤大介（株式会社星野リゾート・トマム代表取締役 総支配人）
十日市秀悦（タレント）、貝吹憲子（魚町のわが家：六日町）

【コーディネーター】橋本由貴子（フリーアナウンサー）、
木村聡（八戸せんべい汁研究所 事務局長）

○その他：ユーストリーム視聴者 1,285 名、ツイッター投稿数 22 件

○来場者数：39 名



はっちツアーズ

はっちの魅力をボランティアガイドが楽しく案内

○開催時期：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月（月 1 回）

○概要：はっちツアーズは、ボランティアガイドが館内の展示やものづくりスタジオ、貸館スペースから家具などの調度品に至るまで、1 時間で一通り案内する企画。参加者からは、「より一層はっちの魅力や展示物の価値を知り、そして八戸の様々なことを知ることができた」、「新しい発見があった、また来たい」、などうれしい感想をいただくことができた。また、9：00～17：00 までは、ボランティアガイドが館内で活動しており、いつでもガイド対応をしている。

○参加者数：55 名 ○従事ボランティア数：12 名（各回 1 名）



放送スタジオ「びびすた♪」

これを聞けばはっちの今がわかる！はっちでラジオ番組の生放送。

- 放送日：毎週月曜～金曜 11:00～15:00
- 協 力：コミュニティラジオ局 BeFM
- 場 所：はっち1階・放送スタジオ
- 年間出演者数：約 300 名
- 概 要：3 年目となり、出演者の顔ぶれもにぎやかになってきている。初年度は「ラジオは苦手。緊張するから出たくない」とっていたのにもかかわらず、最近では出演依頼をすると快諾してくれるようになった。はっちでイベントやるときは、BeFM に出られるというのが、浸透してきていると実感している。これからも多くの人に出演してもらえればと思っている。



▲毎回さまざまなゲストが出演。番組を盛り上げた。

フリーペーパー「はちみつ」

このまちがもっと、このまちらしく輝くためのソウゾウ開化…
「はっち」が贈る、おいしい情報

- 概 要：はっち館内のことはもちろん、八戸の魅力を紹介するフリーペーパーとして、平成 24 年度までに全 12 号を発行。市内各所、県内外にも情報を発信している。また県内外の施設やショップからも問い合わせが来るなど、単なる情報誌としてだけではなく、手にとってみたくなるような表紙デザインが受け入れられている。年 4 回のペースで発行。
- 発行部数等：vol.9～10 15,000 部
vol.11～12 16,000 部
- 仕 様：B4 判 8 ページ 2 つ折、フルカラー
- 配布先：中心街約 130 箇所、その他市外約 360 箇所に郵送で配布。



(9 号)



(10 号)



(11 号)



(12 号)

利用者それぞれのアイデアが新たな交流を生み出す

自主事業のほかに、はっちへの集客の大きな要素になっているのが「貸館事業」である。市民はもちろんのこと、市外の方でも、利用者登録をすれば誰でも使用することができる。年々利用者は増え続けており、主催者それぞれに趣向を凝らした企画が、訪れる人々の関心を集めている。また、この貸館事業を通じて利用者と来館者、または利用者同士の交流が促され、輪が広がっていく。そんな貸館事業の中から、一部を紹介する。

すでに恒例行事になっているものもあれば、新しい試みとして展開されるものもあり、その使い方の多様性は、八戸市民をはじめとした利用者の創造性や意識の高さを感じさせるものとなっている。



▲フリースタイルフットボール（8月26日・はっちひろば）



▲八戸工業大学感性デザイン学生作品展（11月2日～7日・シアター2）



▲盆石展（7月7日～9日・シアター1）



▲フラワーデザイン展 ing（1月19日・はっちひろばほか）



【貸館稼働率】(2012年4月～2013年3月)

スペース	H24	
	稼働日数	稼働率
はっちひろば	229.0	65.4%
番町スクエア	39.5	11.3%
シアター平均	304.8	87.1%
シアター 1	314.0	89.7%
シアター 2	295.5	84.4%
ギャラリー平均	256.8	73.4%
ギャラリー 1	306.0	87.4%
ギャラリー 2	218.0	62.3%
ギャラリー 3	246.5	70.4%
音のスタジオ	280.5	80.1%
和のスタジオ平均	152.0	43.4%
和スタ 1	164.5	47.0%
和スタ 2	146.0	41.7%
和スタ 3	149.0	42.6%
和スタ 4	148.5	42.4%
八 庵	80.5	23.0%
食のスタジオ	111.5	31.9%
レジデンス平均	269.4	77.0%
レジA	251.5	71.9%
レジB	350.0	100.0%
レジC	254.0	72.6%
レジD	226.5	64.7%
レジE	265.0	75.7%
共同キッチン	157.0	44.9%
共同スタジオ平均	171.7	49.0%
共スタA	170.0	48.6%
共スタB	171.5	49.0%
共スタC	173.5	49.6%
その他平均	52.8	15.1%
シャワー室	31.5	9.0%
映写室	27.5	7.9%
楽屋 1	85.5	24.4%
楽屋 2	82.0	23.4%
調整室	37.5	10.7%
総 計	5,012.0	51.1%

▲書のライブ・発表会 (5月4日・はっちひろば・シアター1)



▲Coco fiore ビーズアクセサリー展 (9月12日～15日・ギャラリー1)



▲はっちで千葉高 (12月9日・はっちひろばほか)



▲伊藤久美わらべ絵展 (7月21日～・ギャラリー1)

こどもはっち

未来の文化を創造する こどもたちが開かれた場



県産材の温もりに包まれ、親子の笑顔いっぱいの空間のこどもはっち。ひとつひとつの道具や空間に、あたたかい木の手触りや香りを直接感じることができるとともに、子どもの創造性を引き出し、子どもたちの視点で安全性を確保した空間設計がなされている。

子どもだからこそ、本物の文化、良質な素材に触れ合うことが大切。また、何かに集中する時間を持つことが、子どもたちの成長にきわめて重要であると考え、子どもたちと親たちにとって、いい時間と空間を提供しようと日々努めている。

遊具やおもちゃはもちろん、スタッフや利用者のアイディアを生かしたイベント等が定期的開催されている。

- 開館時間 / 9:30～16:30
- 休館日 / 毎月第2火曜日
12月29日～1月1日
- 入場料 / 100円（未就学児は無料）
- 運営管理 / 八戸市こども家庭課
- 運営 / NPO法人はちのへ未来ネット

○24年度を振り返って

24年度もこどもはっちは、ワクワク楽しい行事やイベントを開催しました。初めての試みとなった親子遠足では、みんなでバスに乗って南郷にお出かけ、ミニ新幹線に乗ったり、人形劇を観劇したり、山の学校でせんべいを焼いたり、楽しい思い出がたくさんできました。また、現役子育てのママが講師となって、プリザートフラワーの講習会を実施、素敵な作品に日頃の忙しさからほっと一息する時間も有意義でした。「なりきりおひな祭り」では、ママやパパはもちろん、おじいちゃん、おばあちゃんが、可愛いちびっこのお雛様姿に大感激でした。3周年を迎え、館内のおもちゃも充実させ、ますます皆さんに愛されるこどもはっちとして頑張ります。

（NPO法人はちのへ未来ネット 代表・平間恵美）



▲季節の行事や風習も大事に伝えます。



▲キラキラパパコンテストでは自慢のパパを紹介



▲こども商店街。お寿司屋やアイスクリーム屋さんが登場。



▲親子キラキラ体操。ヨガや 3B 体操などもママに大好評。



▲おさがり掘り出し市。先輩ママからの無料提供もあり。



▲まるごとこどもはっち、夏祭り。たくさんのお楽しみブースが登場。



▲親子お茶会。こどもはっち内のミニ茶室を使って。



▲プロの劇団による親子遊びのワークショップ



▲なりきりおひなさまは大人気企画。

2012.4－2013.3

八戸ポータルミュージアム はっちの歩み

発行日 2014年3月31日

発 行 八戸市【八戸ポータルミュージアム はっち】

〒031-0032 青森県八戸市三日町 11-1

TEL 0178-22-8228 FAX 0178-22-8808

<http://hacchi.jp>